

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」



4学年 国語科

授業 表現力を高め、互いの良さや工夫を共有するKeynote活用

めあて：中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

【Keynoteの同時編集機能で“他者参照“】
 同じワークシートが出席番号順に並んでいて、自分に割り当てられたスライドで文章作成する。同時に編集しているので、いつでも参照できる。これにより、書き方に戸惑う子がつまずいたままにならず、また、早く作成が終わった子がよりよく仕上げるために見合うことも可能になる。



担任の先生のコメント

家族に伝える「伝統工芸ブック」作りがゴール。伝統工芸品の良さや特徴などが分かるようにすること、自分の考えとそれを伝える理由などが伝わるように書くには何度も書き換えたり、参照することが必要でプレゼンテーションアプリはとても有効。Keynoteは縦書きにも対応しており、機能も豊富であることから、表現力を高める場面で活用したい。

《授業の流れ》

1 全体説明

調べた情報を整理して、「伝統工芸ブック」づくりをする。学習の見通しと確認。



2 情報の整理

前時までに集めた情報から、文を組み立てる。教科書の叙述から足りない情報を補い、思考を整理。



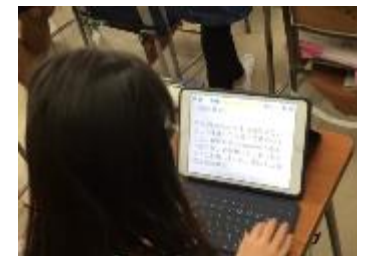
3 表現

整理したアプリ画面と、Keynoteの画面を2画面表示にしながら、スライドに文章を入力。



4 振り返り

振り返りもクラウドに保存、提出。教師の見取りと、自分の学びの調整につながる



【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」



授業

3学年 総合的な学習の時間

学校の特色をインタビューしよう

めあて： インタビューしたいことをまとめ 質問をする

【Google Meetを活用した他校の児童へのインタビュー】

昨年度より横浜市で導入しているプロジェクタ、マイク等のセットを活用して、市内他校と交流し、児童(5年生)にオンラインでインタビューを実施しました。



担任の先生のコメント

事前に相手校の先生に質問事項や、MeetのURLを共有するだけで、互いに訪問などをしなくても交流ができるのはとても魅力でした。児童も「生中継がうれしかった」や「相手校にとっても興味がわいた」などとても熱心に授業に参加できていたように思います。

《授業の流れ》

1 事前準備

前時までにまとめた質問事項を再度確認し、グループで模擬練習



2 インタビューの流れ確認

どんな風に相手に映るか、どんな風に話せばいいのか、話し終えたら自席にどのように戻るか、などをシミュレーション



3 オンラインのインタビュー開始

自校の周辺について紹介をしたり、事前に準備した質問事項を質問したりして、交流を実施



4 まとめ

今回、質問して学んだことや、感想をプリントに記載する



【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」



研修

校務での活用と、授業に活かす発展的活用について

目的：iPadの純正アプリの機能を理解しよさや便利さを体験する

【活用した主な純正アプリ】



メッセージ テキストや画像などを送信できる。※試験的な取組
グループチャットやアニメーション機能も利用できる



Clips 静止画やビデオを組み合わせて短編動画を作成できるアプリ。



Keynote テキスト・動画像・表グラフなどを取り入れ、幅広い表現ができるプレゼンテーションアプリ



研修に参加した先生のコメント

「いままで、教員同士の情報連絡は職員室の校務用PCやメモが頼りだったけど、GIGA端末でチャットのようにできるのは便利だ。」
「自分オリジナルのミー文字ができたので、子どもと楽しめそう。」
「Clipsなら子どもでも手軽に動画づくりができそう。」
「Keynoteを授業で子どもに活用させてみようかな。」

《研修の流れ》

1 教員同士のチャット

iPadのメッセージアプリを活用し、質問や活用アイデアを柔軟に共有

2 「アバター」作成機能

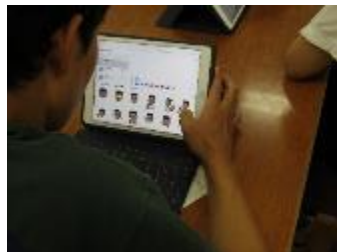
自身の似顔絵（ミー文字）を作成。ミー文字で簡単なリアクションや、デジタル作品へのスタンプなどに活用

3 Clipsで動画撮影

自動字幕機能などを使って、授業用動画の作成。活用として漢字の書き順などへの利用の発案

4 Keynoteで表現力を高める

グラフや図形の挿入に際して、Live Video機能を活用しての画像挿入などを実施。「ミリーの素敵なぼうし」などの活用事例紹介



※小学校指定校では試験的にiCloud(200GB)を活用しています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

横浜市立獅子ヶ谷小学校

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」



6 学年 総合的な学習の時間

授業

役に立つ、夢をかなえるテクノロジーを専門家に学ぶ。
ドローン・プログラミングのオンライン授業

めあて：自分の意図通りにドローンを飛ばすプログラムを考えよう

【外部専門家（※企業）によるオンライン授業】1日目



外部講師がオンラインで教室の子どもたちとつながりました。子どもたちはドローンの仕組みやプログラミングについて、動画やクイズなどで学ぶことができました。

※情報システム関連企業



担任の先生のコメント

今回はドローンが正しく飛ぶように、一人ひとりがプログラミングを体験しました。子どもたちには、決められたルートを飛ばすために試行錯誤するなかで、論理的思考力が育まれると感じました。また、この体験が「楽しい」でとどまることなく、「どう活かしていくか」ということを考えていけるきっかけになるとよいと思いました。

《授業の流れ》2日目

1 めあての確認

本時のめあてや、ドローン用のアプリ※※の使い方を確認する。

2 プログラミングをしよう

端末にインストールされたアプリで、ドローンを飛ばすプログラミングをする。

3 ドローンを飛ばしてみる

企業のスタッフのサポートを得ながら、ドローンが自分の意図通りに飛ばかどうか試行錯誤してみる。

4 振り返り

プログラミングの体験を振り返るとともに、プログラマーやエンジニアといった仕事の魅力ややすばらしさにもふれながら、自分の将来について考える学習につなげた。



※※ドローン用のプログラミングアプリを活用しています。